



北海道神経難病研究センター
2025年度活動報告

第14号

(2025年4月～2026年3月)

北海道神経難病研究センター

目 次

1. 2025年度活動報告について
2. 北海道神経難病研究センターの概要
3. 2025年度活動報告
 - (1) 神経難病臨床研究部門
 - (2) 神経難病リハビリテーション部門
 - (3) 神経難病看護・ケア部門
 - (4) 神経難病医療相談・福祉支援部門
4. 北海道神経難病研究センター主催講演会
北海道神経難病ケースカンファレンス
神経難病セラピストの座談会

1 2025年度活動報告について

北海道神経難病研究センターは、平成23年7月に神経難病に関する病態解明および学術的治療研究、看護をはじめとしたコメディカルによる多角的臨床研究、神経難病患者を中心とした医療環境に対する調査・研究を行い、これら神経難病に対する総合的かつ包括的な研究を推進し、北海道における神経難病医療と環境の発展を図ることを目的に設立した。

研究センター全体としての活動は、平成23年度活動報告、平成24年度活動報告、平成25年度活動報告、平成26年度活動報告、平成27年度活動報告、平成28年度活動報告、平成29年度活動報告、平成30年度活動報告、平成31年度は2019年度活動報告として発刊し、2020年度活動報告、2021年度活動報告、2022年度活動報告、2023年度活動報告、2024年度活動報告に引き続き、今回、2025年4月～2026年3月までの活動を2025年度活動報告としてまとめました。

2020年から蔓延したCOVID-19パンデミックや働き方改革は診療や臨床研究に多大な影響を与えているが、北海道神経難病研究センターでは2024年4月からAPRIN eラーニングを導入し、人を対象とする医学系研究に関する倫理指針を理解した臨床研究の適正化と推進に向けたシステムを導入し、大学や多施設との共同研究や外部基金からの研究助成を受け、神経難病に関する研究・調査を一步一步ですが進めております。

これまでの多方面の方々からご支援賜りましたことを深謝申し上げますとともに、今後とも引き続きご指導、ご鞭撻下さりますよう、お願い致します。

2026年4月

専務理事・センター長 森若文雄
代表理事 濱田晋輔

2 北海道神経難病研究センター 概況

(1) 設置年度：平成 23 年 7 月 7 日

(2) 組織：北海道神経難病研究センター 最高顧問：田代邦雄
同 センター長・専務理事：森若文雄
同 代表理事：濱田晋輔

研究部門（主任研究者）：

- 1) 神経難病臨床研究部門（武井麻子）
- 2) 神経難病リハビリテーション部門（中城雄一、成田 雅）
- 3) 神経難病看護・ケア部門（佐藤美和、大久保暁子、三谷理子、鈴木りか、藤田恵巳子）
- 4) 神経難病関連（検査、薬剤、栄養）部門（白濱英暁、瀧元裕二、工藤麗子）
- 5) 神経難病在宅医療・地域医療部門（本間早苗）
- 6) 神経難病医療相談・福祉支援部門（下川満智子）

(3) 事業

- 1) 神経難病医療に関する臨床医学的調査・研究
- 2) 神経難病に関するリハビリテーション研究
- 3) 神経難病に関する看護調査・研究
- 4) 神経難病医療とその関連諸部門の学際的調査・研究
- 5) 神経難病に関する地域・在宅医療調査、研究
- 6) 神経難病医療に関する患者を中心とした環境調査・研究
- 7) 第1号から第6号まで掲げる調査・研究に対する研究助成
- 8) 北海道における神経難病医療に関する諸交流の推進
- 9) 神経難病医療に関する研究者の育成
- 10) 神経難病医療に関する諸成果の刊行
- 11) 神経難病医療に関する研修会・講演会・シンポジウム等の開催
- 12) 神経難病医療調査・研究に関する文献等の収集及び閲覧
- 13) 北海道における神経難病医療調査・研究の受託
- 14) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

3 2025年度活動状況：

(1) 神経難病臨床研究部門

神経難病臨床研究部門は、医務部が各部と連携して活動している。【研究業績】、【社会活動】、【教育活動】、【その他】にわけて報告する。

【研究業績】

【原著論文】

- 1 Eguchi K, Yaguchi H, Uwatoko H, Iida Y, Hamada S, Honma S, Takei A, Moriwaka F, Yabe I: Gait Video-Based Prediction of Severity of Cerebellar Ataxia Using Deep Neural Networks, *Mov Disord.* 2025 40(4):752-758,2025 doi: 10.1002/mds.30113. Epub 2025 Jan 22.
2. Ota K, Mani H, ochimura K, Nakashiro Y, Hamada S, Moriwaka F : Five functional domains associated with gait performance in Parkinson's disease and trunk flexion. *Front.Neurol.*, 8:16:1541970.2025 doi:10.3389/fneur.2025.1541970. eCollection 2025.
3. Narita M, Sakano K, Nakashiro Y, Moriwaka F Hamada S, Okada Y :Factors Associated With the Decline in Daytime Bed Mobility Independence in Patients With Parkinson's Disease: A Cross-Sectional Study.*J Mov Disord.*18(3):231-243.2025 doi: 10.14802/jmd.25035. Epub 2025 Apr 25.
4. Kinoshita M, Yamamoto M, Machida R, Misawa M, Yabe S, Yoshida N, Kikuchi A, Fukaura H, Kaida, Ohno K: Painful muscle stiffness with markedly elevated serum creatine kinase (CK) levels after twenty weeks of gestation in four patients with myotonic dystrophy type 1 (DM1) and a patient with paramyotonia congenita (PMC), *J Neuromuscul Dis.* 12(4):558-566.2025
5. Narita M, Sakano K, Nakashiro Y, Moriwaka F Hamada S, Okada Y :Directional Asymmetry in Bed Mobility in Parkinson's Disease: The Impact of Symptom Laterality and Handedness. *Mov Disord Clin Pract.* 2025 Nov 12. doi: 10.1002/mdc3.70430. Online ahead of print.
6. Kinoshita M, Kubota T, Yamamoto M, Shinozawa K, Oji S, Fukaura H, Kaida K, Takahashi MP, Ohno K.Piper rhythm-like electromyographical activity in muscle stiffness in sodium channel myotonia representing potassium-aggravated myotonia and myotonia permanens.*J Neurophysiol.* 2026;135(1):289-296. doi:10.1152/jn.00466.2025.
7. Nishida Y, Ono D, Kawamura M, Kawamura T, Mimura K, Fukaura H, Ebata E, Koyama S, Ebihara Y, Oka H.Disseminated gonococcal infection developing two days after initial eculizumab administration in a patient with neuromyelitis optica spectrum disorder: A case report and literature review.*J Infect Chemother.* 2025;31(9):102782. doi:10.1016/j.jiac.2025.102782.
8. Kinoshita M, Yamamoto M, Machida R, Misawa M, Yabe S, Yoshida N, Kikuchi A, Fukaura H,

Kaida K, Ohno K. Painful muscle stiffness with markedly elevated serum creatine kinase levels after twenty weeks of gestation in four patients with myotonic dystrophy type 1 and a patient with paramyotonia congenita. *J Neuromuscul Dis.* 2025;12(4):558-566. doi:10.1177/22143602251329168.

9. 山田恵子、伊藤和則：頭痛外来を受診した片頭痛患者の頭痛日数と臨床的特徴・共存症についての検討、
日本頭痛学会誌 52:549-554, 2026

【学会・講演会発表】

【国内学会・講演会】

【2025年度】

4月17日（木）Neurology Conference 新横浜グレイスホテル、横浜市

深浦彦彰：NMOSDの最新治療と患者意思決定支援：SDMを実現するアプローチ

4月25日（金）神経免疫疾患セミナー web

深浦彦彰：視神経脊髄炎スペクトラム障害における医療者の役割：最新治療と患者意思決定の調和

5月13日（火）片頭痛治療 web seminar

座長 深浦彦彰

演者 岩崎めぐみ 唐津赤十字病院

5月14日（水）Parkinson Disease WEB Seminar

座長 廣谷 真

演者 大塚千久美（むろらん神経内科クリニック）：

パーキンソン診療のリアルワールド ～サフィナミドの有用性と使いどころ～

5月16日（金）北海道難病遠隔医療講演会（T K Pガーデンシティ札幌駅前）

座長 菊地誠志

演者 原田昌範（山口県立総合医療センター へき地医療支援センター）

へき地における遠隔医療の展開 ～難病医療の均てん化に向けて～

6月25日（水）北海道難病医療連携講演会

総合司会 菊地誠志

演者 矢部一郎（北海道大学大学院医学研究院神経内科学教室教授）：北海道内を繋ぐ、

神経科診療連携のビジョン

演者 新野正明（独立行政法人国立病院機構 北海道医療センター 臨床研究部長）：患者を通じての

多発性硬化症の医療連携の模索

6月29日（日）札幌市難病医療相談会講演会、北海道難病センター3階大会議室

廣谷 真：進行性核上性麻痺・大脳皮質基底核変性症の治療とケア

7月3日(木) 神経疾患最前線 MS & GFAP

廣谷 真：多発性硬化症の地域診療と外来リハビリテーション

7月18日(金) 神経難病医療連携講演会 (Web 講演)

菊地誠志：北海道における神経難病医療への挑戦

7月24日(木) 地域で支えるパーキンソン病治療を考える会 2. 在宅の先生向けの薬の話題

本間早苗：食道裂孔ヘルニアを伴うパーキンソン病患者への経皮吸収型ドパミン作動性パーキンソン病治療剤の有効性・安全性

8月5日(火) PD Expert Lecture ～ L-dopa Optimization に向けて～ (オンライン形式)

座長 濱田晋輔

8月6日(水) 北海道 Neurology Seminar 2025 (Web 配信)

濱田晋輔：パーキンソン病のあれこれ ～進行期の諸問題解決に向けて～

9月2日(火) 神経免疫疾患を学ぶ根室薬剤師の会 根室商工会館 根室市

深浦彦彰：薬剤師が支える免疫性神経疾患治療～生物学的製剤の適正使用をめざして

9月2日(火) 新時代の片頭痛治療を考える ～良好な人間関係と高いレベルの偏頭痛治療の両立を

目指す最高の頭痛チーム医療、組織として卓越するには～

座長 山田恵子

9月4日(木) パーキンソン病地域医療連携セミナー (18:00～19:00)

講演1 高橋美博：パーキンソン病患者の困りごと ～外来リハビリテーション編

講演2 相馬大介：非運動症状が中心のパーキンソン病患者・家族との関わりについて

～当院訪問リハビリテーションでの1例～

講演3 廣谷 真：遠くの将来と、近くの将来がみえますか？ ～パーキンソン病と人生会議

9月6日(土) 第116回日本神経学会北海道地方会 (札幌医科大学記念ホール、ハイブリッド開催)

武井麻子、ほか：ペランパネルが著効を奏した良性家族性成人型ミオクローヌスてんかん3例の報告

9月29日(月) サフィナミドユーザーズミーティング2025

SESSION1 座長 濱田晋輔

10月15日(水) 道東パーキンソン病 診療連携の会 web

深浦彦彰：パーキンソン病の診療連携を考える～道東からの実践報告～

10月17日(金) MS診療 Update web

深浦彦彰：MS治療の時間軸を見据えた戦略的アプローチ

10月22日(水) NMOSD (視神経脊髄炎スペクトラム障害) の「根釧医療連携」を考える会 釧路プリ

ンスホテル ハイブリッド

深浦彦彰：地域医療で考えるNMOSD～病態解明から新規治療薬まで～

10月23日(木)～25日(土)、第9回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会(旭川市民文化会館・アートホテル旭川)

教育講演 飯田有紀:神経筋疾患における嚥下障害

10月28日(火) NMOSD セミナー ～チーム医療を考える～ web

深浦彦彰:視神経脊髄炎スペクトラム障害(NMOSD)の病態と治療の最前線

11月5日(水) 令和七年度(2025年度) 神経難病研修会 北海道根室保健所、web

深浦彦彰:～パーキンソン病のリハビリテーションと脊髄小脳変性症の理解～

11月22日(土) 令和7年度狭山保健所医療講演会 埼玉県狭山保健所

深浦彦彰:多発性硬化症・視神経脊髄炎の理解と治療の進歩

12月1日(月) 神経疾患医療連携講演会 オホーツク×十勝

廣谷 真:オホーツクエリアでの神経疾患医療連携

12月2日(火) 日本医師会生涯教育講座 令和7年度 認知症学習会ハイブリッド開催(会場:札幌市医師会館)

本間早苗:成年後見制度、診断書記載方法

12月8日(月) MS Update 2025 web

座長 深浦彦彰

演者 日野秀嗣(さいたま赤十字病院)

12月21日(日) MS キャビン ウェブフォーラム web

深浦彦彰:MOGADの基本

【2026年度】

2月6日(金) Lunchtime Seminar Practical B-cell Therapy web 配信

深浦彦彰:MS治療戦略のパラダイムシフト～安定をどう守るか～

2月18日(水) 医療安全と不眠症セミナー web 配信

座長 深浦彦彰

演者 畠山茂樹(砂川市立病院 認知症疾患医療センター)

2月18日(水) パーキンソン病トータルマネセミナー

座長 飯田有紀

演者 小林拓司:パーキンソン病のリハビリテーション -入院外来の経験を踏まえて-

座長 濱田晋輔

演者 中村智彦(浜松医科大学脳神経内科):パーキンソン病診療におけるレボドパ最適化と非運動症状

3月10日 Neuroscience Web Seminar

座長 森若文雄

3月11日（水）神経内科領域における慢性便秘症を考える「（ホテルポールスター札幌、Web配信）

総合座長 濱田晋輔

3月23日（月）札幌市西区 難病研修会

武井麻子：脊髄小脳変性症の病態理解と在宅ケア

3月24日（火） Medii Lecture（web配信）多発性硬化症から考える、ライフステージごとの最適治療

深浦彦彰：多発性硬化症など希少難病診療における 周辺知識整理の実践術

（専門医の知見とAIの活用による意思決定支援）

【社会活動】

【検診・医療班派遣】

1. 森若文雄：令和7年度オホーツク地区スモン検診、6月5日、9月6日
2. 深浦彦彰：令和7年度 北方四島交流事業「洋上慰霊」医療班、8月8日
3. 濱田晋輔：令和7年度利尻礼文在宅難病患者訪問検診、稚内保健所、9月11日～13日

【教育関係】

【講義】

1. 武井麻子・本間早苗：札幌医療リハビリ専門学校夜間部講義
 - 1) 神経内科総論
 - 2) 脊髄小脳変性症
 - 3) 多系統委縮症
 - 4) 高次脳機能障害
 - 5) 遺伝子性末梢神経障害
 - 6) 自己免疫性疾患（中枢性）
 - 7) 自己免疫性疾患（末梢神経）
 - 8) 筋疾患
 - 9) 絞扼性神経障害

【その他】

深浦彦彰：北方四島交流等事業「洋上慰霊」随記 ～おもいをつなぐ夏の祈り. 北海道医療新聞 2025年8月11日 第2571号

(2) 神経難病リハビリテーション部門

理学療法領域、作業療法領域、言語聴覚療法領域での活動を報告し、【研究業績】、【社会活動】、【教育活動】と【2025年度医療用HAL実施実績】にわけて報告する。

【研究業績】

【原著論文】

1. **Ota K**, Mani H, bNochimura K, Nakashiro Y, Hamada S, Moriwaka F: Five Functional Domains Associated with Gait Performance in Parkinson's Disease and Lateral Trunk Flexion. *Front Neurol*, 2025 Apr 8;16:1541970. doi: 10.3389/fneur.2025.1541970. eCollection 2025.
2. **Narita M**, Sakano K, Nakashiro Y, Moriwaka F, Hamada S, Okada Y. Factors Associated With the Decline in Daytime Bed Mobility Independence in Patients With Parkinson's Disease: A Cross-Sectional Study. *J Mov Disord*. 2025 Jul;18(3): 231-243.
3. Sato Y, Yoshida H, Ota K, Hamada K, Ishikawa N, Matsuda R: Association between Physical Function at Discharge and Fall Frequency One Month after Discharge in Patients with Progressive Supranuclear Palsy. *Physical Therapy Research* 28(3) 215-224 2025年11月
4. **Narita M**, Sakano K, Nakashiro Y, Moriwaka F, Hamada S, Okada Y. Directional Asymmetry in Bed Mobility in Parkinson's Disease: The Impact of Symptom Laterality and Handedness. *Mov Disord Clin Pract*. 2026 April ;13(4):1101-1103. Accept 2025 Nov 12
5. Ura S, **Ota K**, Kai T, Sugano K, **Narita M**, Kitagawa T: Qualitative Assessment of Network Meta-Analyses of Exercise Therapy for Parkinson's Disease: A Scoping Review. *Cureus* Dec 30;17(12):e100412. 2025年12月30日
6. Konzo M, **Narita M**, Naito M, Ide A, Kai T, Wakabayashi D, Fujita W, Shibata T, Okada Y. Endurance and Efficiency of Cycling and Manual Wheelchairs in Late-Stage Parkinson's Disease: A Preliminary Study. *J Mov Disord*. 2026 Jan 21. doi:10.14802/jmd.25317.

【症例報告】

1. 太田経介：パーキンソン病の病期と病態に応じた理学療法の実践、理学療法ジャーナル 59 (10)1197-1204、2025

【学会・講演会発表】

【国内学会・講演会】

【2025年】

- 10月25日 飯島健介、成田雅、中城雄一、飯田有紀、廣谷真、森若文雄：神経筋難病患者のQOLを支えるリハビリテーション戦略、第9回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会（合同シンポジウム：神経難病リハビリテーション研究会）
- 10月31日 後村圭太、武田賢太、坂野康介、飯田有紀、藤井慎太郎、河島則天：重心動揺リアルタイムフィードバックを用いたパーキンソン病患者の立位姿勢制御への調節的介入、第23回日本神経理学療法学会学術大会（石川）
- 10月31日 原田夢叶、岩部達也、太田経介、中城雄一、森若文雄：外来パーキンソン病患者において、笑顔トレーニングにより抑うつ症状の軽減と行動変容が観察された一例、第23回日本神経理学療法学会学術大会（石川）
- 10月31日 石坂美波、岩部達也、小林拓司、近野登弥、浅見琴音、中城雄一、武井麻子、森若文雄：家族参加型ホームエクササイズがパーキンソン病外来患者2例のQOLに与えた影響：ABシングルケースデザイン、第23回日本神経理学療法学会学術大会（石川）
- 10月31日 太田経介、坂野康介、岩部達也、武田賢太、大塚裕之、成田雅、中城雄一、本間早苗、濱田晋輔、森若文雄：パーキンソン病の姿勢異常に対し、頭部中心座標系を基準とした姿勢練習により身体中心座標系偏倚の改善を認めた一例、第23回日本神経理学療法学会学術大会（石川）
- 10月31日 坂野康介、武田賢太、野田貴暉、成田雅、太田経介、後村圭太、飯田有紀、河島則天、
- 第23回日本神経理学療法学会学術大会（石川）
- 11月1日 野田貴暉、武田賢太、坂野康介、成田雅、太田経介、後村圭太、中城雄一、飯田有紀、森若文雄、濱田晋輔、志水孝太郎、河島則天：重心追尾型歩行計測システムを用いた脊髄小脳変性症患者の歩行動作の特徴分析、第23回日本神経理学療法学会学術大会（石川）

【2026年】

- 2月14日 鶴田知也、本間早苗：入院時のパーキンソン病患者における気分障害と栄養状態の関連性、第41回日本栄養治療学会学術大会（横浜）

【研究会】

【2025年】

- 2月5日、岩見田光多：パーキンソン病患者の就労継続をどう支えるかー代償と環境調整を活かした視点ー、第35回北海道神経難病ケースカンファレンス、オンライン
- 3月24日 後村圭太：パーキンソン病患者における立位姿勢障害の再考-評価の解像度を高め病態把握を深める-,第36回北海道神経難病ケースカンファレンス,オンライン

【講演】

【2025年】

- 6月10日 太田経介：パーキンソン病における姿勢制御・歩行障害に対する介入戦略、一般社団法人大阪府理学療法士会生涯学習センター
- 7月24日 西海顕一郎、野原唯、靄田知也：地域で支えるパーキンソン病治療を考える会
- 8月6日 中城雄一 パーキンソン病のリハビリテーション 北海道 Neurology Seminar (旭川)
- 9月4日 廣正理沙：「パーキンソン患者の困りごと～外来リハビリテーション編」パーキンソン病地域医療連携セミナー2025 オンライン
- 9月4日 相馬大介：「非運動症状が中心のパーキンソン病患者その家族との関わりを振り返って～当院、訪問リハビリテーションの1例～」パーキンソン病地域医療連携セミナー オンライン
- 9月7日太田経介：姿勢異常を伴うパーキンソン病治療の転換点ー遠隔リハがもたらすパラダイムシフト、第44回東京都理学療法学会学術大会ランチョンセミナー
- 10月19日 石坂美波：「スモン患者に対する HAL 治療の効果」令和7年度スモンの集い、札幌国際ビル
- 11月1日 成田 雅 日本神経理学療法学会 教育講演 進行期のパーキンソン病 第23回日本神経理学療法学会学術大会 (石川)、2025.10.31-11.1
- 11月16日 鍋倉智子：「パーキンソン病の言語障害・摂食・嚥下障害とリハビリ」全国パーキンソン病友の会北海道支部 医療講演会 北海道難病連センター (ハイブリット)
- 11月25日 太田経介：姿勢障害の二面性：なぜパーキンソン病患者は『曲がって』『倒れる』のか、日本医療大学 リハビリテーション系同窓会研修会

【2026年】

- 1月17日 太田経介：パーキンソン病における精神神経症状と自律神経症状 (排尿障害・起立性低血圧) に対する包括的介入、札幌支部研修会、パーキンソン病の非運動症状に対する理学療法
- 1月17日坂野康介：パーキンソン病の便秘症に対する包括的介入、札幌支部研修会、パーキンソン病の非

運動症状に対する理学療法

- 2月18日 小林拓司：パーキンソン病のリハビリテーション～入院と外来の経験を踏まえて～、小野薬品株式会社 パーキンソン病トータルマネジメントセミナー
- 2月20日 太田経介：小脳性運動失調に対する評価と介入方法、医療法人脳神経研究センター 新さっぽろ脳神経外科病院、院内研修
- 3月10日 工藤育恵：言語聴覚療法とコミュニケーション支援、Neuroscience Web Seminar

【社会活動】

1. 太田経介：認定理学療法神経分野問題作成部員 2025年～2026年度
2. 太田経介：シニアカレッジ向けパーキンソン病プログラム、株式 emome、2025年
3. 小林拓司：第12回日本地域理学療法学会学術大会 準備委員 2025年
4. 後村圭太：北海道理学療法士会 札幌支部 学術・教育部 神経筋疾患担当 2025～
5. 奥滝優太：北海道訪問リハビリテーション連絡会 サポートメンバー 2025.5～
6. 奥滝優太：日本パーキンソン病・運動障害疾患学会遠隔リハビリテーション研究会 標準的リハビリテーションプログラム(作業療法編)試作シートモニター 2025.5
7. 小林拓司：パーキンソン病友の会 歩む会第1回交流イベント 2025.7.12
8. 鹿野咲：北海道難病検診、利尻・礼文 2025.9.17.～9.19 成田雅：北海道理学療法士協会 学術部 研究倫理審査部 部員 2026.1～
9. 野田貴暉：美唄市教育委員会 総合体育館トレーニング室 理学療法士トレーニング指導 2026.1～
10. 小林拓司：美唄市教育委員会 総合体育館トレーニング室 理学療法士トレーニング指導 2026.1～

【教育活動】

【講義】

1. 本間冬真：作業療法概論Ⅲ 作業遂行能力の評価，札幌リハビリテーション専門学校、2025, 6, 26
2. 馬道健弘：神経難病の作業療法，北海道作業療法士会，新人研修高齢期，2025. 9. 2
3. 坂野康介、後村圭太：神経障害理学療法学，北海道リハビリテーション大学校、2025. 9. 11、9. 16
4. 太田経介：神経障害理学療法学、2025/7/9. 16
5. 成田雅 神経難病の非運動症状、(神経筋障害) 臨床認定カリキュラム，日本理学療法士協会 2025年11月 (web オンデマンド)

6. 坂野康介：多発性硬化症の理学療法，2025 年度認定理学療法士（神経筋障害）臨床認定カリキュラム，日本理学療法士協会・国立精神神経医療研究センター，2025.10 月-12 月（web オンデマンド）
7. 鹿野咲：地域で暮らすを“支える”人たちの視点と考え方，日本医療大学、2025, 10, 21
8. 鹿野咲：神経難病とリハビリテーション，札幌リハビリテーション専門学校、2025, 12, 19

【2025 年度医療用 HAL 実施実績】

【疾患と延べ実施人数】

北海道脳神経内科病院

筋萎縮性側索硬化症	3 名
球脊髄性筋萎縮症	3 名
遺伝性痙性対麻痺	4 名
シャルコー・マリー・トゥース病	..	3 名
筋強直性ジストロフィー	2 名
ネマリンミオパチー	2 名
脊髄小脳変性症	2 名
.....	計 19 名（重複含）

札幌パーキンソン MS 神経内科クリニック

球脊髄性筋萎縮症	2 名
ネマリンミオパチー	2 名
進行性ジストロフィー	2 名
封入体筋炎	2 名
シャルコー・マリー・トゥース病	1 名
.....	計 9 名（重複含）

(3) 神経難病看護・ケア部門

院外・院内研究会参加、看護部教育を報告する。

1. 研究会参加状況

【院外研修】

日 時	研修テーマ	主 催	参加者
2025年8月2日	せん妄対策プログラム研修会	国立研究開発法人 国立がん研究センター	1名
2025年9月9日	診療報酬（施設基準等）に係る基礎的な知識～看護要員管理等の正しい理解のために～研修会	北海道看護協会	2名
2026年1月27日	2025年度 看護の専門性の発揮に資するタスク・シフト/シェア全国セミナー	日本看護協会	2名
2026年3月26日	R8年度診療報酬改定説明会	日本看護協会	2名

【院内研修】

日 時	研修テーマ	講 師	主 催	参加数 (看護職/全体)
2025年10月29日 ～11月21日	褥瘡と皮膚障害の鑑別	学研 eラーニング	褥瘡対策管理委員会	63 / 120名
2025年11月18日	職員事故報告書 ハラスメント演習 (一般職員向け)	医師：本間	医療安全管理委員会 ハラスメント委員会	10名
2025年11月28日	職員事故報告書 ハラスメント演習 (管理者向け)	看護師：佐藤	医療安全管理委員会 ハラスメント委員会	10名

2026年2月17日	職員事故報告書 ハラスメント演習 (一般職員向け)	看護師：佐藤	医療安全管理委員会 ハラスメント委員会	6名
2026年3月	職員事故報告書 (一般職員向け) (管理者向け)	資料閲覧	医療安全管理委員会	61名
2025年9月1日 ～9月12日	感染対策は手洗いか ら	感染制御チーム委員	感染制御チーム	全員

2. 【看護部教育】

日時	研修テーマ	参加者	担当
2025年8月6日	KYT研修	4名	教育委員
2025年10月8日	人工呼吸器の基本的な知識を習得し、安全管理が出来る	5名	教育委員

日時	学研 eラーニング 研修テーマ	参加者
2025年6月	はじめにおさえておきたい看護記録の心得	看護職全員
2025年4月～7月	入門編：重症度、医療・看護必要度、どうやって評価する 重症度、医療・看護必要度の評価の手引きを理解する 一般急性期病棟編：重症度。医療・看護必要度の評価のポイントと活かし方	看護職全員

2025年4月～10月	<ul style="list-style-type: none"> ① 看護職と看護補助者との協働推進の背景 ② 看護補助者の位置づけ ③ 看護補助者との協働における看護業務の基本的な考え方 ④ 看護補助者との協働における業務実施体制 ⑤ 看護師による看護補助者への指示について ⑥ 知っておきたい看護補助者へ適切な業務指示を行うための留意事項 ⑦ 看護補助者と協働するための情報共有とコミュニケーション 	看護職全員
2025年4月～10月	<ul style="list-style-type: none"> ① 医療制度の概要および病院の機能と組織の理解 ② チームの一員としての看護補助者業務の理解 ③ 守秘義務、個人情報保護の基礎知識 ④ 労働安全衛生の基本的知識 ⑤ 接遇・マナーの基本 ⑥ 倫理の基本 ⑦ 環境整備 ⑧ 入浴のお世話 ⑨ 清潔のお世話 ⑩ 排泄のお世話 ⑪ 食事のお世話 ⑫ 洗面のお世話 ⑬ 口腔ケア ⑭ 移動のお世話 ⑮ 診療に関わる補助業務の基本 ⑯ 医療安全 ⑰ 感染予防 ⑱ 認知症患者の対応 ⑲ 療養上のお世話に関わる業務マニュアル ⑳ 看護補助者が知っておきたい実践医療用語 	看護助手全員

3. 【対外活動】

【実習受け入れ】

年 月 日	学校名 実習内容	受入数
2025年8月26日～9月12日	札幌保健医療大学3年 高齢者看護	6名
2025年10月7日～24日	札幌保健医療大学3年 高齢者看護	6名
2025年10月28日～29日	天使大学1年 基礎看護学臨地実習 I	4名
2025年11月4日～5日	天使大学1年 基礎看護学臨地実習 I	4名

(4) 神経難病医療相談・福祉支援部門

【年間事業計画】

1. 年間事業計画

(1) 医療機関連携

他医療機関との連携が円滑に行えるように、当院や当部署の役割分担を院外に周知するという目的と、医療機関の情報収集と連携強化を行う目的で医療機関との交流を継続して行っている。訪問を実施できなかった医療機関等については、文書や電話等の手段をとり、当院・当部署の役割について周知を行い、患者様に関する情報収集は継続して行うことができた。今後も、医療機関訪問活動を継続できるよう努める。

(2) サロン活動

今年度は、準備が整わず実施することが出来なかった。これまでに頂いたご意見なども含めて、今後再開できるよう準備に努める。

(3) 院内研修・研究活動

今年度は、集合研修という形はとれなかったが、院内連携に関して日頃の支援を充足する目的で『CMS ニュース』を作成し院内周知を行った。研究については今後の事業計画に取り入れられるよう努める。

(4) 地域社会福祉活動

今年度は体制が整わず難病検診への参加は見送らせて頂いた。自己研鑽のために各自で学会や研修会に参加することができた。また、居宅支援事業所より研修講師の依頼があり、正確な情報を集め適切な支援を可能にする目的でケアマネジャーを対象とした難病についての研修で2026年2月20日に講師担当させて頂いた。

2. 前方連携と後方連携

(1) 前方連携

2025年度は受診相談が489件、内訳は患者・家族からの相談が415件、医療機関からの相談が51件、在宅スタッフからの相談が23件で、患者・家族からの相談が一番多かった。また、新規診療予約調整が803件であり、内訳は患者・家族からの連絡が512件、医療機関からの紹介が284件、在宅スタッフからの紹介が7件で、こちらも患者・家族からの連絡が一番多く、受診相談から診療予約に繋がったケースが多いことが窺える。

また、入院前支援として入院相談が215件、入院予約業務が466件、入院問合せ対応が449件、入院前の在宅スタッフとの情報収集・共有が1362件であった。

受診相談や入院相談において、当院での受け入れ対応が困難な場合であっても患者・家族の診療が中断しないよう、真摯な対応に努めた。

(2) 後方連携

2025年度は852人の入院を受け入れ、そのうち当部署のスタッフが主に退院支援・調整を行った件数（退院支援加算）は263件（30.9%）であった。2025年度の退院患者は844名で、在宅（自宅・施設）への退院調整はそのうち731件（86.6%）であり、患者・家族が安心して療養生活を送れるよう、院内外のスタッフと連携を図り支援することができた。

4. 北海道神経難病研究センター主催講演会

北海道神経難病リハビリテーションケースカンファレンス 2025 年度活動報告

	開催日	タイトル	参加者数
第 35 回	2026 年 2 月 5 日	パーキンソン病患者の就労支援をどう支えるか - 代償と環境調整を活かした視点 - 発表者：岩見田光多氏 北海道脳神経内科病院 OT	89 名
第 36 回	2026 年 3 月 24 日	パーキンソン病患者の立位姿勢障害を再考する - 評価の解像度を高め病態把握を高める - 発表者：後村圭太氏 札幌パーキンソン MS 神経内科クリニック PT	58 名

第35回北海道神経難病ケースカンファレンス

**パーキンソン病患者の
就労継続をどう支えるか**
- 代償と環境調整を活かした視点 -
Employment support in Parkinson's disease

5. FEB. 2026
19:00-20:00 |
Zoom Online

スピーカー 北海道脳神経内科病院
作業療法士 岩見田 光多

申し込みフォーム
https://osma35.pseatx.com

第36回 北海道神経難病ケースカンファレンス

**パーキンソン病患者における
立位姿勢障害の再考**
～評価の解像度を高め病態把握を深める～

2026.3.24(火)
19:00-20:00
Zoom Online

札幌パーキンソンMS神経内科クリニック
理学療法士 後村圭太

参加申し込みはこちら！

「神経難病セラピストのための座談会」2025年度活動報告

	日時	タイトル	会場	参加者数
第57回	2025年5月20日	パーキンソン病予知トレーニング 『こんなときどうする？ ディベート企画』 ①血圧の低い患者さんに、運動する VS 運動しない ②患者さんへ、敬語を使う VS 使わない	北海道脳神経 内科病院	19名
第58回	2025年7月15日	施設紹介&パーキンソン病予知トレーニング 『施設紹介 定山溪病院』 『こんなときどうする？ ディベート企画 第2弾』 ①ケア場面にリハが、入る必要がある VS 入る必要はない ②情報提供書に現病歴を、入れる VS 入れない	札幌パーキン ソン MS 神経 内科クリニッ ク	28名
第59回	2025年9月16日	施設紹介&パーキンソン病予知トレーニング 『施設紹介 訪問看護ステーション ポプラ』 『こんなときどうする？ ディベート企画 第3弾』 ①誤嚥性肺炎を繰り返しているパーキンソン病患者さんに、直接訓練（経口摂取）を行う VS 行わない ②パーキンソン病患者さんの発声練習としてのカラオケは、必要 VS 不要 ③軽度パーキンソン病患者さんの早期リハ（PT/OT/ST）を、やる VS やらない	札幌パーキン ソン MS 神経 内科クリニッ ク	12名
第60回	2025年11月18日	施設紹介&パーキンソン病予知トレーニング 『施設紹介 PDハウス訪問看護ステーション』 『こんなときどうする？ ディベート企画 第4弾』 ①家屋調査は、入院中に病院スタッフが行う VS 退院後に在宅スタッフが行う ②PD 症状の自覚が乏しい方に、繰り返し自覚を促す VS そのまま見守る	北海道脳神経 内科病院	11名
第61回	2026年2月17日	パーキンソン病予知トレーニング 『こんなときどうする？ ディベート企画 第5弾』 ①PD患者さんへ冬期間は、屋外活動を積極的に導入すべ	札幌パーキン ソン MS 神経 内科クリニッ	11名

		き VS 屋内活動を中心に切り替えるべき ②PD 患者さんへ痛みを伴う治療は、あり VS なし ③幻覚のある患者さんを、否定する VS 肯定する	ク	
--	--	--	---	--

2025 年度座談会は第 57 回から 61 回まで対面形式で 5 回開催しました。幹事会も開催月の前月にハイブリット形式で 5 回開催しました。開催場所は北海道脳神経内科病院と札幌パーキンソン MS 神経内科クリニックの 2 会場でした。昨年度開催して有用であった「パーキンソン病予知トレーニング」を 2025 年度も継続しました。内容はディベート規格として下記のようなテーマで意見交流を図りました。

第57回神経難病セラピストの座談会
パーキンソン病予知トレーニング
『こんなときどうする？』
ディベート企画

第1回戦 「血圧の低い患者さんに」
運動する**VS**運動しない

第2回戦 「患者さんへ敬語を」
使う**VS**使わない

「血圧が低い患者さんのリハビリはどうしたらいい?」、「患者さんには敬語が適切?」。セラピストが臨床で出会う場面を想定し、参加者みんなで「こんなときどうする?」を考え、お互いのグループに分かれて意見交換を行います。ベテランの先輩の意見や、他の若手セラピストの工夫を知ること、明日からの対応力がきっとアップするはず。失敗談も大歓迎! みんなで学び、成長できる、活気ある座談会にしましょう!



5月20日
18:30 ~ 19:30

対面での開催 参加費無料
※グループはこちらで設定します

懇親会あります 参加費**1,500円**

主催：(一財) 北海道神経難病研究センター
北海道神経難病リハビリテーション研究会
お問い合わせ：座談会幹事 馬道 E-mail : zadan-kanji@hokkaido-find.jp

参加申し込み
締切5/19
<https://00m.in/vwFkj>



第58回神経難病セラピストの座談会

施設紹介&パーキンソン病予知トレーニング
『施設紹介 定山溪病院』
『こんなときどうする?』
ディベート企画 第2弾!』

前半は、定山溪病院の紹介をしていただきます。他の病院施設ではどんなリハビリが行われているのか学べるチャンスです。
 後半は、ディベート企画第2弾!!
 「ケア場面にリハビリが入る必要がある? 必要ない?」
 「情報提供書に現病歴入れるべき? 入れなくても良い?」
 「お心遣いを受け取る? 受け取らない?」

参加者みんなで「こんなときどうする?」を考え、お互いのグループに分かれて意見交換を行います。自分の考えと違う意見について考え意見交換をすることで、多様な視点を得ることができ、明日からの対応力がきっとアップするはず。みんなで学び、成長できる、活気ある座談会にしましょう!



7.15 火 18:30-19:30

場所 札幌パーキンソンMS神経内科クリニック
札幌市北区北7条西5丁目7-6 札幌北スカイビル 12F
※お車でお越しの場合、近隣の駐車場をご利用ください

参加費 無料

内容 それぞれランダムにグループ分けをします。自分の意見とは違ってもその意見のグループになりきって相手とディベートします。

懇親会 ・座談会後に懇親会を予定
・会費2,000円 (大丸札幌店など近隣のお店のお惣菜や飲み物を準備しております)

お申込みはこちらから

<https://00m.in/GlFTw>
 締切**7.14**

主催：(一財) 北海道神経難病研究センター
北海道神経難病リハビリテーション研究会
お問い合わせ：座談会幹事 馬道 E-mail : zadan-kanji@hokkaido-find.jp

施設紹介 & パーキンソン病予知トレーニング
『ディベート企画 第3弾』

『施設紹介 ~訪問看護ステーション ポプラ~』
2025.09.16 18:30~19:30

前半は、訪問看護ステーション ポプラの紹介をしていただきます。他の病院施設ではどんなリハビリが行われているのか学べるチャンスです。


後半は、ディベート企画第3弾！！

- ①誤嚥性肺炎を繰り返しているパーキンソン病患者さんに
直接訓練（経口摂取）を行う？行わない？
- ②パーキンソン病患者さんの発声練習としてのカラオケは必要？不要？
- ③軽度パーキンソン病患者の早期リハ（PT・OT・ST）をやる？やらない？

参加者みんなで「こんなときどうする？」を考え、お互いのグループに分かれて意見交換を行います。自分の考えと違う意見について考え意見交換をすることで、多様な視点を得ることができ、明日からの対応力がきっとアップするはず。みんなで学び、成長できる、活気ある座談会にしましょう

場所	札幌パーキンソンMS神経内科クリニック 札幌市北区北7条西5丁目7-6 札幌北スカイビル 12F ※お車で越しの場合、近隣の駐車場をご利用ください
参加費	無料
内容	それぞれランダムにグループ分けをします。自分の意見とは違ってもその意見のグループになりきって相手とディベートします。
懇親会	・座談会後に懇親会を予定 ・会費2,000円（大丸札幌店など近隣のお店のお食事や飲み物を準備しております）

お申込みはこちらから



<https://00m.in/SCUUp>
締切 9.15

主催：（一財）北海道神経難病研究センター
北海道神経難病リハビリテーション研究会
お問い合わせ：座談会幹事 馬道 E-mail：zadan-kanji@hokkaido-find.jp

施設紹介・ディベート企画第4弾
『PDハウス札幌訪問看護ステーションの紹介』
『ディベート こんなときどうする？ 第4弾』

2025.11.18 | 18:30~19:30

前半は、PDハウス訪問看護ステーションの紹介をしていただきます。他の病院施設ではどんなリハビリが行われているのか学べるチャンスです。
後半は、ディベート企画第4弾！！

- 『PD症状の自覚が正しい方に、繰り返し自覚を促す VS そのまま見守る』
- 『PD患者の幻覚症状を、否定する VS 肯定する』
- 『家庭調査は、入院中に病院スタッフが行う VS 退院後に在宅スタッフが行う』

参加者みんなで「こんなときどうする？」を考え、グループに分かれて意見交換を行います。自分の考えと違う意見について考え意見交換をすることで、多様な視点を得ることができ、明日からの対応力がきっとアップするはず。みんなで学び、成長できる、活気ある座談会にしましょう

場所 北海道脳神経内科病院 リハビリテーション室
札幌市西区二十四軒2条2丁目4-30
※お車で越しの場合、当院の駐車場をご利用ください

参加費 無料

内容 それぞれランダムにグループ分けをします。自分の意見とは違ってもその意見のグループになりきって相手とディベートします。

懇親会 ・座談会後に懇親会を予定
・会費2,000円



お申込みはこちらから



<https://00m.in/CJ1Uk>
締切 11.17

主催：（一財）北海道神経難病研究センター
北海道神経難病リハビリテーション研究会
お問い合わせ：座談会幹事 馬道 E-mail：zadan-kanji@hokkaido-find.jp

第61回神経難病
セラピストの座談会

日時 2月17日(火)

参加費
無料

会場 札幌パーキンソンMS神経内科クリニック

札幌市北区北7条西5丁目7-6 札幌北スカイビル 12F
※お車で越しの場合、近隣の駐車場をご利用ください

ディベート企画
『こんなときどうする？ 第5弾』

- ・PD患者さんへ冬期間は屋外活動を積極的に継続すべき？屋内活動を中心に切り替えるべき？
- ・PD患者さんへ痛みを伴う治療はあり？なし？
- ・幻覚のあるPD患者さんを否定する？肯定する？

内容 それぞれランダムにグループ分けをします。自分の意見とは違ってもその意見のグループになりきって相手とディベートします。

懇親会あり 座談会後に懇親会を予定（会費2,000円）



お申込みはこちらから



<https://00m.in/ZeTsj>
締切 2.16

お問い合わせ：座談会幹事 馬道 E-mail：zadan-kanji@hokkaido-find.jp